

客観的

①名詞について

経験 事実の叙述

	<判定基準>	<VP>	<例>
① 存在・性質	[-意図性] [-限界性]	～がある	プレゼント
② できごと（結果状態の持続）	[-意図性] [-限界性]	～する	長持ち
③ 状態変化, 実現	[±意図性] [+限界性]	～になる	歌手, 便利
④ 身体状態	[-意図性] [+限界性]	～がする, ～になる	悪寒, 胃炎
⑤ 刺激に対する心身の反応	[-意図性] [+限界性]	～する, ～になる	感動, パニック
⑥ 行為	[+意図性] [+限界性]	～する	プレゼント

評価 感情の叙述

	<判定基準>	<VP>	<例>
⑦ 外見に対する評価	[外見]	～である	清潔／ハンサム, ボロボロ
⑧ ①-③, ⑥に対する評価	[評価表現]	～（感）がある, ～である	満足感, 人気／勢い, 変
⑨ ラベル付け	[地位・身分／NOT 職業名!]	～になる	ヒーロー, ?上手
⑩ 嗜好・味覚	[嗜好・味覚]	～である, ～がある	好き／嫌い, コク
⑪ 心理状態	[心理形容詞]	～である, ～を感じる	楽しみ, 哀愁, 危機感

主観的

②和語について

評価順序

1. 経験か評価か？

speakerしか動作主／経験者になり得ない／行為の結果が動作主／経験者の(心)身に直接影響する／動詞形＝経験！

例: 今日とはとても【けだるい】

シャツの色が【あせて】しまった。 cf., このシャツは縫い目が【あらい】

【こそばゆい】／化粧が【くずれた】 cf., 机の上が【ぐちゃぐちゃだ】

2. 辞書形でポジネガがつくか？可能形／受け身形でないと評価できないか？

辞書形で評価可能→そのまま経験か評価かを考慮してポジネガ評価

例:【結婚した】おこづかいを【もらった】

2-1.辞書形では評価不可能→「レル／ラレル」形で経験か評価かを考慮してポジネガ評価(この場合, 辞書形は評価からはずす)

例:足を【踏まれた】雨に【降られた】わたしは50m【泳げる】この図書館ではDVDも【見れる】

2-2.辞書形で評価不可能(i.e., 可能／受け身にして初めて評価可能)な場合の評価は以下の4分類

「レル／ラレル1」(可能)

[動作主／主語に(のみ)は～する能力がある／～できる理由は動作主にある／行為の結果が動作主に直接影響する＝ポジ(経験)]

例: ジョッキで3杯は【飲める】

「レル／ラレル2」(可能)

～することが一般に広く許されている(誰でもできる)／～できる理由は動作主以外にある＝ポジ(評価)

例:ビールが【飲める】のは成年だけだ.

「レル／ラレル3」「～テモラウ／クレル」(受け身／授受表現)

受け身＝ポジ(経験)

例: 空港で【出迎えらえた】
映画に【誘ってもらった／くれた】

「レル／ラレル4」(受け身)

迷惑受け身＝ネガ(経験)※ただし可能の意味もとれるものは、評価が逆転する場合あり

例: 部屋を【荒らされた】
弟にケーキを【食べられた】 cf. 「軽く3杯は【食べられる】／あの店は深夜でも定食が【食べられる】」
車を家の前に【止められた】 cf. 「バックでも【止められます】か／安い駐車場に【止められた】」

ポジネガが付け難いもの、ポジネガなし？

願望

「うらやましい」「ほしい」「のどから手が出るほど～だ」

普通

「月並み」「カエルの子はカエルだ」「飾り気がない」「他愛ない」

感情

「多感だ」「衝撃的だ」「驚く」「物好きだ」「居ても立ってもいられない」「狂おしい」「照れくさい」

外見・行為に対する評価

「派手」「馬鹿でかい」「大胆不敵だ」「放胆だ」「強腰だ」「格下だ」「奇をてらう」「月とすっぽんだ」「口八丁手八丁」「齒に衣着せない」

ポジネガがつかないもの

数学用語, 数値の上下を表す語

「割り切れる, 割れる」「上だ／下だ」「最高／最低」